公益社団法人日本産科婦人科学会
Japan Society of Obstetrics and Gynecology

妊婦さんとご家族へ

妊婦さんの疑問に答える!
RSウイルスワクチン
Q&A



妊婦さんの疑問や不安をもとに、効果や安全性をまとめました。

接種費用 原則無料

2026年4月から 定期接種に

定期接種には 努力義務があります

RSウイルス感染症は 集団での予防を目的とする 「A類疾病」です

※努力義務は接種を強制するものではありません。　※接種費用や手続きの詳細は、お住まいの自治体にご確認ください。

必要性と効果について

Q. RSウイルスは、どんな病気ですか?

A. **発熱、鼻水、せきなどを起こす感染症**です。**肺炎や細気管支炎を起こすこともあります。**
特に生後6か月以内の赤ちゃんでは重症化することがあり、基礎疾患のない赤ちゃんも入院が必要になる場合があります。

Q. なんのために接種するのですか?

A. 生まれてくる赤ちゃんを、**RSウイルスによる重い肺炎や細気管支炎から守るため**です。
妊婦さんへの接種でつくられた抗体が胎盤を通って赤ちゃんに届き、生まれたときからの予防につながります。

Q. どうして、妊娠中の接種が必要なのですか?

A. 特に生後6か月以内の赤ちゃんは、RSウイルスに感染すると重症化することがあります。
生まれたばかりの赤ちゃんは免疫の働きが未熟なため、妊娠中にお母さんの抗体を届け、生後早い時期から備えることが大切です。

Q. 赤ちゃんには、どれくらい効果がありますか?

A. 妊婦さんへの接種でつくられた抗体が、胎盤を通って赤ちゃんに届きます。
臨床試験では、RSウイルスによる重症の下気道感染症(肺炎や細気管支炎など)を、**生後3か月までで約8割、生後6か月までで約7割減らす効果が示されています。**すべての感染や重症化を防ぐものではありません。
※妊娠24~36週に接種した妊婦を対象とした臨床試験の結果です。

本リーフレットは、ファイザー株式会社の公募型医学教育活動プロジェクト助成を受けて作成しました。

安全性について

Q. お腹の赤ちゃんへの影響が心配です。

A. 臨床試験では、**先天異常が増えたという結果は示されていません。**
このワクチンには、**生きたウイルスは含まれていません。**
妊娠高血圧症候群は、承認時の**臨床試験ではリスク増加を認めませんでした。**
一方、海外の一部の報告では増加の可能性が示され、解釈には注意が必要です。
妊娠高血圧症候群の方やそのリスクがあると診断された方などは、接種前に主治医へ相談を。

Q. どんな副反応がありますか?

A. 主な副反応は、**注射した場所の痛みや腫れ、頭痛、筋肉痛です。**多くは数日で軽くなります。
重大な副反応として、ショック、アナフィラキシー、ギラン・バレー症候群が添付文書に記載されています(いずれも頻度不明)。
息苦しさ、顔やのどの腫れ、手足に力が入りにくいときは速やかに受診を。
急な呼吸困難や意識の異常がある場合は、すぐに119番へ。

接種と相談

Q. いつ、何回受けるのですか?

A. **定期接種は、妊娠28週0日から36週6日までの間に1回受けられます。**過去の妊娠で接種した方も対象です。
RSウイルス感染症は集団で予防するべき疾病(A類疾病)に位置付けられており、定期接種には「努力義務」があります。
出産予定や妊娠経過を踏まえ、接種時期を主治医と相談してください。
接種後14日以内に生まれた赤ちゃんへの有効性は確立していません。



Q. 費用・予約や相談は、どこへ?

A. 接種への不安や迷いは、**主治医や助産師に相談できます。**
定期接種は原則無料です。※接種する場所や自治体の制度によっては、自己負担が発生する場合があります。
気になることを伝え、効果や副反応、妊娠経過を確認しながら接種を検討しましょう。
接種場所・費用・里帰り先での手続きは、住民票のある市区町村へ確認を。
接種歴は母子手帳に記録し、赤ちゃんの小児科受診時に伝えてください。



動画や詳しい情報はこちらから▶

日本産科婦人科学会　母子免疫ワクチン

日本産科婦人科学会
「女性を脅かす感染症」
https://www.jsog.or.jp/citizen/7042/

発行　公益社団法人日本産科婦人科学会
Japan Society of Obstetrics and Gynecology

出典:厚生労働省「RSウイルスワクチン」対象者向けリーフレット(2026年4月)、PMDA電子添文(2026年7月)、
日本産科婦人科学会「接種した妊婦への注意点」(2025年9月改定版)　質問構成:母子免疫ワクチン意識調査(2026年7月)

本リーフレットは、ファイザー株式会社の公募型医学教育活動プロジェクト助成を受けて作成しました。